



安全管理の研究

～園における安全管理のマネジメントとは～



はじめに

送迎バスにが取り残されるという事故、遊具のひもで首を巻き付けてしまったという事故、リンゴを詰まらせて窒息する事故など昨今、園での事故が多くみられる。しかし、どれだけ安全に配慮しても事故は起きる。

そんな中、多くの人が依然として自分の身には起こらないと考えている。園の運営においては、「最も大切な子どもの命を守る」「子どもたちの最善の利益を守る」ということを自覚することが大切であり、そのことが、保育現場の安全管理と危機管理の基本となる。

安全管理と危機管理

安全管理とは、「これから起こる可能性のある危機・危険に備えておくための活動」

危機管理とは、「すでに起こってしまったトラブルに関して、事態がそれ以上悪化しないように状況を管理すること」

⇒「危機管理」が起きてしまった危機への対処であるのに対し、「安全管理」は予防である点が大きな違い

ヒヤリハットの事例を集める

事故や怪我にならなかったものの、怪我をしそうになり焦った(ヒヤリ)、気づいたら危険が迫っていた(ハット)など、危ないと思ったことを見つける。

有名なのがハインリッヒの法則で、1件の重大な事故の裏には29件の軽微な事故などがあり、その下には300件ものヒヤリハットが存在するといった法則「ヒヤリハットの報告」の数が多い現場ほど実際の事故は少ないという結果が出ているという。

事例を集めてハード面(環境や設備)とソフト面(保育者のかかわり方)の双方からの見直しが大切。

ヒヤリハットの事例

複数園にアンケートした回答をもとに①園内で発生②園外で発生③アレルギー・食べ物関連④その他(プール遊び)に分類した

①【園内】

- ・椅子の座り方が悪く、背もたれに体重をかけ後ろにひっくり返る
- ・ドアの開け閉めの加減がすぎてドアに指を挟む
- ・保育室のロッカーに額をぶつけ切る
- ・体操のなわとびの指導中、転倒しあごを切る
- ・転倒しおもちゃ箱にぶつかり、あごを切る



②【園外】

- ・滑り台やブランコなど、遊具からの転落
- ・石山、高い場所からジャンプしバランスを崩して転倒
- ・帽子のゴムが遊具にひっかかり首を絞めてしまい怪我
- ・鉄棒で足を振り上げたら、近くにいた子どもを蹴りそうになった
- ・涼をとるため水まきで子ども同士で衝突
- ・しゃぼん玉を追い、塀にぶつかる



③【アレルギー・食べ物関連】

- 乳アレルギー児がいる中で牛乳がこぼれる
- 除去食以外のおかずが落ちていてアレルギー児が触れてしまう
- お弁当デーで同じ弁当箱を取り違えてしまう
- アルコール消毒によって皮膚がかぶれたり、荒れたりしてしまう
- ミニトマトをのどに詰まらせ窒息しかける
- むいぐるみから出た綿を口に含んでいた
- 食べ物を口いっぱいにはおぼっていた



④【その他】(プール遊び)

- ・健康管理を怠ってしまう
- ・熱中症や低体温症などの体調不良になってしまう
- ・ビニールプールで足をすべらせ転倒
- ・お互いがいると認識し、監視が不在になってしまう
- ・水深を測っていなかったため、溺れる
- ・プール底に細かい突起があり、傷になる



子どもの安全指導

「安全管理」には子どもたちも自らを守る行動がとれるよう育てる、ということも必要である。
そのためには家庭と一体となって進めることが大切。



自園ではバスの置き去り事故をうけ、バスの避難訓練を実施した。
実際にシミュレーションをし、子どもが一人で安全装置のボタンを押すという訓練をした。

⇒大切なのは繰り返すことと、家庭でも話をしてもらうこと。保護者へ理解を求めた。

重大事故の要因

重大事故の一因として園内の人間関係・風通しの悪さがあげられる。

重大事故は複合的な要因の結果として起こるものが多い。どこまでも園全体で取り組むという自覚を一人一人の職員が持つということが重要である。

重大事故が起こると「保育者の心の余裕のなさ」が問題視されるが、それでは済まされない

⇒園長先生をはじめとした管理職や主任は普段から職場の人間関係や雰囲気、働きやすさに関心をもち、改善していくことが求められる。そして、職員の間で常に「報告、連絡、相談」を実行するという習慣をつけることが必要である。

さいごに

リスクをゼロにすることはできない。いかに小さくしながら子どもたちを守っていくか。しかし、危険ばかりに気を取られて一律に禁止してしまうと成長発達を奪ってしまうことになる。

今回の研修をきっかけに子どもたちの生命と利益を守る保育者という立場から、「安全管理」と「危機管理」の問題を再考してほしい。今の保育現場に何が必要で何が足りないのかを認識し、成功例や具体策を得ながら考えていきたい。